

(様式 17)

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称      博士 (医 学)      氏 名 羽田 政平

	主査	平野 聡
審査担当者	副査	志田 壽利
	副査	秋田 弘俊
	副査	武藏 学

### 学位論文題名

*Helicobacter pylori* 除菌後の血清ペプシノゲン値を用いた胃癌高危険群の分類に関する検討

ペプシノゲン(以下 PG)法は胃粘膜萎縮の検出に有用であるが、除菌後には大きく変動する。本研究より *H. pylori* 除菌後の血清 PG 値を用いて胃癌高危険群を分類することが可能であり、胃癌サーベイランスの効率化に寄与するものと考えられた。

審査会では学位論文内容の発表後、副査 武藏 学教授から PG I と PG II で除菌後の変化の仕方が異なる理由について質問があった。次いで副査 志田壽利教授から分化型胃癌の発生は萎縮性胃炎、未分化型胃癌の発生は胃粘膜の炎症との関与が申請者より示されたことに対して、分子生物学的に胃癌発生の機序について質問があった。さらに副査 秋田弘俊教授から、PG I /II:4.5 で除菌後の内視鏡検査間隔を胃癌高危険群は 2 年、それ以外の群は 3 年とした設定根拠について質問があった。最後に主査 平野 聡教授から総括の言葉があり、除菌療法失敗症例の頻度とその場合の内視鏡検査間隔について質問があった。申請者は得られた研究データや文献的知見を引用し、これらの問いに概ね妥当に回答した。さらに主査から学位論文の表題について「胃癌高リスク群の集約化」が適切な表現ではない可能性を指摘されたため、「胃癌高リスク群の分類」に変更した。

本研究は *H. pylori* 除菌後の血清ペプシノゲン値を用いて胃癌高危険群を分類できる可能性に言及した初の論文であり、*H. pylori* 除菌後の胃癌サーベイランスに貢献することが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。